

# 山行報告書

(2014.03.26改訂)

|           |   |     |      |
|-----------|---|-----|------|
| 日時        | 2014年 5月3日～4日   |     |      |
| 山名        | 比叡山   |     |      |
| CL        | 北山  | 参加者 | ( )名 |
| HP記載の有無 : |   |     |      |
| (コメント)    | <p>5月3日～4日、比叡山で憧れのマルチピッチクライミングに挑戦した。</p> <p>3日はTAカンテの取り付き2ピッチで基本的な動作やコールを練習。ホールドがしっかりしていて、シューズが花崗岩にびたりと吸い付く良い感じ。高さも想定内で、新緑に囲まれて外岩の開放感を楽しみながら同じルートを2回登攀。懸垂下降や自己確保など初めて体験することも、北山さんの丁寧な指導を受け落ち着いて取り組めた。</p> <p>その晩は庵鹿川泊。日が沈むにつれて日本中から続々とクライマーが集結。その数26名。各人が用意した美味しい料理とお酒で大宴会。楽しい夜は延々と続いていたが、私たちは翌日に備えて22時に就寝。</p> <p>4日は朝から快晴。山道を少し登ってTAカンテ、5ピッチを登攀開始。前日とは様子が一転し、終了点も見えない巨大な岩壁。登って行く北山さんがあっという間に見えなくなった。先がどうなっているのか、どのくらい登るのか分からないまま「どうぞ～」とコールが掛かる。竜岩のように気軽に「落ちま～す」とは言えない本番の岩に、ザイルが少しでもたるんでいると不安だった私は「ザイルアップ!!」と連呼。北山さんの腕が筋肉痛になったそうで...申し訳ありませんでした...ようやくたどり着いた1ピッチ目終了点のテラスでは、ザックのポケットから水を取る気力もなかった。</p> <p>どうにか5ピッチ登り終え安全な場所に移動して初めて、下から吹き上げてくる涼しい風を感じ、よじ登ってきた絶壁(ではないでしょうが、その時はそう見えました)に目を奪われ、四肢を駆使して困難を乗り越えた達成感に浸った。登ることに必死で五感をシャットアウトしていたのだなあと思った。初リードを無事に果たし緊張が解けた中澤さんは、登攀中には見られなかった満面の笑みで北山師匠とがっちり握手。TAカンテ2回目??の挑戦という福田さん、新野さんは「前より楽に登れた」と余裕の笑顔。終了点で撮った写真は、皆さん充実感一杯の良い表情でした。</p> <p>初めて本格的なクライミングを体験し、これまで登る楽しさにばかり気をとられていたが、うまく登ることよりもまず安全管理が確実にできることが大切だと痛感した。今後、一つ一つの動作の意味をきちんと理解しながら身に付けていきたいと思う。</p> <p>ご指導頂いた北山さん、たくさんのサポートをしてくださった先輩方、本当にありがとうございました。<br/>お陰さまで素晴らしい比叡山デビューとなりました。</p> <p style="text-align: right;">田坂 記</p> |     |      |